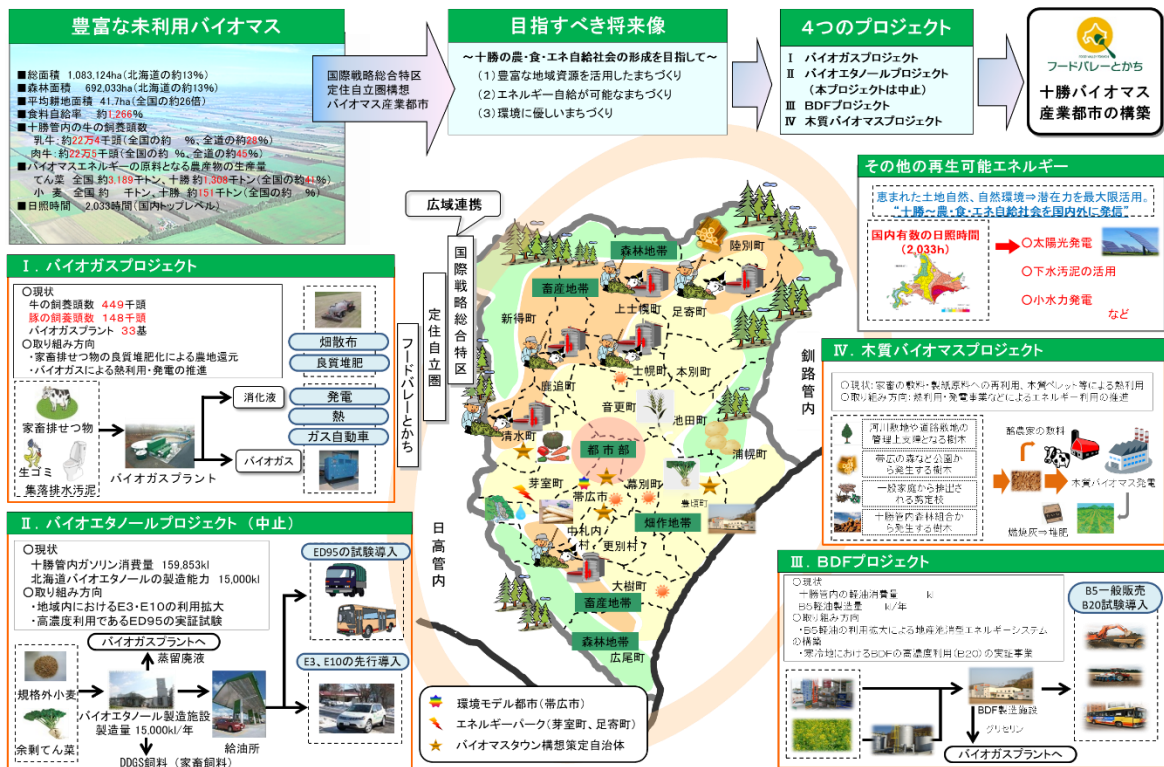


# 北海道帯広市

住所	〒080-0015 北海道帯広市西5条南7丁目1
市長	米沢 則寿
HP	<a href="https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/">https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/</a>
バイオマス産業都市選定地域名	北海道十勝地域（帯広地区）
選定年度	2013年
担当部署	帯広市経済企画課
連絡先 TEL	0155-65-4163
連絡先 FAX	0155-23-0172
連絡先 E-mail	keizai@city.obihiro.hokkaido.jp

## 地域循環型エネルギーシステムの構築 ～フードバレーとかちの実現をめざして～



## 事業化プロジェクトの概要 1

名称	株式会社 DISPO バイオガス発電事業	
実施主体	株式会社DISPO.	
使用する技術	メタン発酵	
実施体制	プラントメーカー	(株)土谷特殊農機具製作所
	設計・施工業者	設計：(株)高田建築設計事務所 施行：萩原建設工業(株)
概要 (計画)	バイオマス原料	作物・野菜残渣、食品製造口ス、 乳用牛排せつ物
	原料処理量(t/年)	3,934.8
	原料投入量(t/年)	3,934.8
	生産物	バイオガス、液肥、固形分（肥料登録済）
	発電量(kwh/年)	1,142,450
	FITの適用	<input checked="" type="checkbox"/> FIT適用 <input type="checkbox"/> FIT対象外
	液肥等生産量(t/年)	液肥：3,752.2 固形分（肥料登録済）：182.5

## 事業化プロジェクトの概要 2

名称	帯広市終末下水処理場バイオガス利活用	
実施主体	帯広市	
使用する技術	メタン発酵	
実施体制	プラントメーカー	水 ing エンジニアリング
概要 (計画)	バイオマス原料	汚泥
	原料処理量(t/年)	消化ガス 120,000m <sup>3</sup> /年
	発電量(kwh/年)	206,000
	FITの適用	<input type="checkbox"/> FIT適用 <input checked="" type="checkbox"/> FIT対象外

## バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト名	進捗状況
1.(株)DISPO.	原料投入量 3,903.3 t (99.2%) 発電量 1,147,145 kWh (100.4%) 液肥 2,243.6 t (59.8%) 固形分 24.4 t (13.4%)
2.帯広市終末下水処理場バイオガス利活用	平成23年有効利用設計、平成24年発電の実施設計、平成25年3月下水道事業により施設整備を行い、平成26年5月に運用開始。発生電力は、施設で利用。

## イニシャルコスト(単位：千円)

事業化プロジェクト	株式会社 DISPO バイオガス発電事業
建設費・設備費等	862,520
	液肥散布用トラクター 6,296 液肥散布用16tスリッパカー 10,300 液肥散布用10tスリッパカー 4,620 (リース)

## ランニングコスト (単位：千円/年)

事業化プロジェクト名	株式会社 DISPO バイオガス発電事業
人件費	10,990
原料等購入費	8
ユーティリティ費	9,129
修繕費	17,845
燃料製造費	2,684
運搬費	2,887

## 事業の経営状況

事業化プロジェクト	計画との進捗比較※	事業実施による効果	
		効果	数値化
1.(株)DISPO. バイオガス発電事業	B ほぼ計画通り	雇用の創出	1.5人
2. 帯広市 終末下水処理場 バイオガス利活用	A 計画以上に進捗している	消化ガス発電設備の 運用	161,890kWh (R3)

## 成功要因

事業化プロジェクト	成功要因
1. (株)DISPO バイオガス発電事業	本施設設置前から産廃処理業を営んでいたため、バイオガス原料となる各種廃棄物の排出元と繋がりがあったため、原料を確保しやすかった。
2. 帯広市 終末下水処理場 バイオガス利活用	平成26年の発電設備の導入・運用前から、汚泥をメタン発酵させ、発生したメタンガスを施設内で暖房利用していたが、夏季は余剰ガスが発生していたため、そのガスを活用し発電を行い、施設内利用をとした点。

## 波及効果（雇用増加、CO2削減効果等）

事業化プロジェクト名	成功要因
帯広市終末下水処理場 バイオガス利活用	消化ガス発電によるCO2削減